

追悼文

伊藤 毅 先生のご逝去を悼む



山崎 芳男

本学会名誉会員，元会長，早稲田大学名誉教授伊藤毅先生が1999年9月11日逝去されました。享年81歳でした。

先生はこの数年ご体調が優れず入退院を繰り返されていらしたので，それまで恒例であった年始のご挨拶をご遠慮申し上げていました。

伊藤先生は1942年9月に早稲田大学理工学部電気工学科をご卒業後同学科に奉職され，1989年3月定年退職，同大学名誉教授となりました。

その間，戦時中は電波工学，敗戦後は基礎音響工学，音響機器，室内音響設計，騒音，振動制御など幅広いご研究と教育に従事され，1959年には「室内音響設計に関する研究」により，早稲田大学から工学博士号を受けられました。

日本音響学会においては，1977年から2年間会長を務められ，その後同学会の名誉会員，1988年にはアメリカ音響学会フェローにも推薦されました。学会以外では，音響に関する工業規格の専門委員会委員長を歴任され，工業標準化に貢献されたことにより，1978年藍綬褒章，1989年勲三等従四位を受けられました。

名著「音響工学原論上下巻」，「騒音制御工学」をはじめ多くの著書は現在でも広く読まれており，先生の薫陶と受けた者の多くが，音響工学分野はもとより広く社会で活躍していることも教育者としての先生の社会に対するご貢献の一端であると思います。

私が先生と最初にお目にかかったのは1966年の春先であったと記憶しております。研究のご相談に何うと昭和20年代10年間は建築音響を，昭和30年代の10年で騒音制御をやり終えたところだ，10年くらいきみのやりたいと言うデジタル信号処理とやらをやってみようじゃないかとおっしゃって受け入れてくださいました。先生は10年ごとに新たな研究をしてこられましたが，私はいまだに卒業できないでおります。

先生には多くの教えを受けましたが，特に印象に残っているのは大学の先生になるのには小中学校とは異なり資格はいらない。ただ問われているのは「全人格を持って学生と接する」ことのみであるというお言葉です。先生は身をもってこれを実践してこられました。

指導者としての伊藤先生は，教わる側の意志を尊重し狭い専門にこだわることなく研究は自由に行わせておられましたが，常に研究の位置付けを問われ，基礎の重要性を説かれ，また伝統をないがしろにされませんでした。先生が声を荒げられた記憶はなく，真夏でも三つ揃いの背広姿で机に向かわれている端正なお姿が今も目に浮かびます。

また、伊藤先生はご自身の考えられる理想的な大学、学会像をお持ちになっており、現実をそれに近づけるべく努めておられました。先生は学内、学会でも多くの人の考えを聞きこれを尊重されておられましたが、時には例えば論文は自国語で書くべきだとのご主張には確固たるものがあり、日本語でよい論文を書けば必要な人ならば必ず読む、下手な英語では良い論文は書けないと主張され、当時編集委員会で英文誌の充実を検討していた私は複雑な心境でした。

また、論文指導でも内容にはほとんど注文をおつけになりませんでした。文章には多くの指摘をなさいました。例えば文章にむやみに句読点を入れることをたしなめられ、ご自身音響工学原論では句読点がなくとも式も含めて歌うがごとく自然に読めるように書いたとおっしゃり好きなお酒が入ると音響工学原論の一節を良くご披露下さいました。これは多分に先生の音楽への造詣の深さに起因しているものと思われま。

実際先生は音楽に関しても専門家と言ったほうがよいほどで、ピアノはもとより作曲も諸井三郎門下生として本格的に学ばれていました。日本作曲家協議会会員でもあり、早稲田大学定年退職の折にはご自作のピアノソナタ2番、3番、ワルツと練習曲をお嬢様の堀内久世さんと卒業生の奥様八木下章子さんが演奏されたCDを作りました。素晴らしい曲で手にされた海外からも含む多くの方々から絶賛されていました。

伊藤先生、永い間本当にありがとうございました。
心よりご冥福をお祈り申し上げます。

略 歴

日本音響学会名誉会員 伊藤 毅
1918年5月3日生れ

1979年11月 Audio Engineering Society of America, Fellow
1982年5月 日本音響学会名誉会員
1983年12月 AES Life Fellow

履 歴

1942年9月 早稲田大学理工学部電気工学科卒業
1949年12月 早稲田大学助教授
1959年4月 早稲田大学教授
1959年12月 “室内音響設計に関する研究”により工学博士を授与さる
1989年3月 早稲田大学定年退職、同大学名誉教授
1974年1月 日本オーディオ協会常任理事
1975年5月～1977年4月 日本音響学会会長
1978年11月 Acoustical Society of America, Fellow

受賞、受章

1969年10月 通商産業大臣表彰（音響機器のJIS制定普及につき）
1977年10月 大隈記念学術褒賞受賞
1978年11月 藍綬褒章受章
1979年5月 電子通信学会昭和53年著述賞受賞
1988年2月 第39回日本放送協会放送文化賞受賞
1990年5月 勲三等瑞宝章、従五位
1999年11月 正五位